

自ら学び自ら考える力の育成を目指す修学旅行

埼玉県児玉郡神泉村立神泉中学校

教諭（三年担任） 渡辺勝徳

教諭（三年副担任） 関口陽子

I、 本校の概要等

（1）神泉村と本校について

II、 テーマ設定の理由

III、 修学旅行を意識した学校行事等

（1）国際理解交流学習

（2）オーストラリア海外研修

IV、 修学旅行の取り組み

（1）事前準備

- ① 組織作り
- ② 事前活動日程
- ③ 事前活動の内容

（2）修学旅行の実際

- ① 第1日目
- ② 第2日目
- ③ 第3日目

（3）事後指導

- ① しおりの整理と反省
- ② 班ごとの報告会
- ③ 修学旅行の感想文から

V、 まとめ（成果と課題）

I 本校の概要等

(1) 神泉村と本校について

児玉郡神泉村は、人口約1,400人で埼玉県北西部に位置し、都心から80～85km県内にある。東は児玉町、南は秩父郡皆野町及び吉田町、西は群馬県多野郡鬼石町、北は鬼石町と神川町に接する。

昭和29年阿久原村と矢納村との合併により生まれ、昭和40年のダム建設や高度経済成長により、人口の流失が続き過疎化を余儀なくされたが、現在は恵まれた自然条件を生かした新しい村づくりを目指している。

古くは御牧(勅使牧)の一つである阿久原牧や武蔵七党の児玉党発祥の地とも言われ非常に古い伝統のある村である。有氏神社の盤台行事(はだか祭り)は県の無形民俗文化財に指定されているユニークな祭りである。また、神流川に架かる登仙橋(矢納地区)から上流3kmに国の天然記念物に指定されている三波石峽がある。周囲約20kmの神流湖、そして春は桜、ツツジ、夏はキャンプ、秋は紅葉、冬に咲く冬桜と四季折々に楽しめる城峯公園などで知られている。

本校は昭和39年に阿久原中学校と矢納中学校を統合して発足した。本校は阿久原地区中央に位置している。この地域は史跡阿久原牧の中心地で山紫水明県立上武自然公園の中核をなし、先人武蔵武士の中心勢力だった児玉党剛勇を輩出した由緒の地であり、山河の景観に恵まれている。

学校を取り巻く教育資源は、大変豊富で素晴らしい教材が各地にある。この教育資源を教材としてどのように活用していくか、学校の課題である。

現在の生徒数は40人(平成14年5月1日現在)の少人数で神泉村の自然や保護者、地域の人々に温かく育てられ、素直な成長の様子が伺える。あいさつや清掃もよくでき、部活動にも熱心に参加している。教師の話にもよく耳を傾け、話を聞き取る姿勢もできている。また、生徒同士の関係も幼稚園、小学校、中学校と一緒に生活しているので、お互いの長所や短所をよく知っており仲の良い生活を送っている。上級生は、下級生の世話が自然にできる心のゆとりがある。生徒を取り巻く環境は、他の市町村と違い、生徒の健全な育成を阻害するものは少ない。そのため、生徒の行動様式はゆったりとしていて積極性に欠け、発表力不足の面もある。

本校の学校教育目標は「知性を高め、身体を鍛え、心豊かな生徒」である。具体目標は①課題を持ち学習に参加できる生徒②学習した成果を生活に生かせる生徒③自らの生き方を考えることのできる生徒④運動に親しみ、継続できる生徒⑤体力づくりができる生徒⑥健康で安全な生活ができる生徒⑦感謝の心や思いやりの心を持つ生徒⑧奉仕の心を持つ生徒⑨挨拶のできる生徒である。

本校の課題の一つとして少規模のため様々な人と触れ合う機会が少ない点にある。そのため、国際理解教育に力を入れて早稲田大学留学生と国際交流学習を行っている。他に、村の海外派遣事業として2年生を対象にオーストラリアでの海外研修を夏休みに1週間実施しており、2年生全員が参加し現地でのホームステイを体験したり現地の学校で授業を受けて学習を深めている。3年生の修学旅行もたくさんの人と触れ合うよい機会であり、体験学習等も取り入れて自ら学び自ら考える力の育成を目指している。

Ⅱ テーマ設定の理由

本年度より完全実施されている教育課程は、完全学校5日制の下、各学校がゆとりの中で、児童生徒一人一人の個性を生かす教育を展開し、基礎・基本の定着を徹底し、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育成することなどを基本的なねらいとしている。

この趣旨を実現するため、中学校では「生きる力」としての資質や能力を身に付けさせる場と機会を可能な限り与え、将来に役立つ豊かな体験をさせる必要がある。また、生徒一人一人が自ら自分の進路を選択し、自信を持って卒業できることこそ学校の役割であるとする。そのために、学校行事は「生きる力」の育成に絶好の機会の一つである。

修学旅行は、日常的な環境とは異なる場での体験学習ができる絶好の機会である。修学旅行は自然、文化、経済、産業、政治などについての見聞を広め、楽しく豊かな集団行動の機会を通して、健康、安全、集団のきまり、公衆道徳等について、望ましい体験を得させることを目的にしている。本校では3年生の修学旅行で京都・奈良を見学している。

京都・奈良は日本の文化が生まれ、歴史の舞台となった日本の古都です。お寺や仏像、神社や庭だけでなく、町並みや風景一つひとつからも歴史と伝統が感じられる。また、修学旅行では、グループで見学したり、友達と一緒に風呂に入り、食事をし、自由におしゃべりを楽しむ時間もある。教師は支援・援助に心がけ、生徒が主体的に課題に取り組み創り上げる活動となるように留意し、生徒が何を学習すべきか、一人一人に確かな学習意欲を持たせ、実際に見聞し、自然や文化に接し、多くの人達と交流を図ることにより充実した修学旅行になると考え、本テーマを設定した。



神泉村立神泉中学校 平成14年度修学旅行記念 於 大徳寺

Ⅲ 修学旅行を意識した学校行事

1 国際理解交流学习（全学年）

本校では、村の協力のもとに、1学期に早稲田大学の留学生を招いて城峯公園キャンプ場において国際理解交流学习を実施している。1・2・3年全員で縦割りの班を作り、数カ国の留学生との交流や宿泊を通して、地域や日本の文化を伝え、留学生から英語の学習や外国の文化、習慣等を学び、生徒に国際感覚を身に付けてもらうことをねらいとした行事である。また、自然の中での生活や共同での宿泊生活を通して、集団のきまりや公衆道徳を守り、望ましい集団生活の経験を積むことにより、修学旅行に向けての訓練になると考える。2年前より「総合的な学習の時間」を使い地域の方から事前に様々な自然体験や生活体験、日本の文化等について学び、それを留学生に紹介する形で行っている。

（1）趣旨

外国人留学生との関わりを通して、国際人として通用する価値観を養い、日本人としての生き方を見つめ直す。

（2）ねらい

- ① 自分と異なるものを素直に認め、それを受け入れる心を育てる。
- ② 地域の紹介や自己表現を主体的にすることを通して、自己をより深く知る。
- ③ 自分の思いや考えをしっかりと相手に伝える訓練の場とする。
- ④ 共に活動に取り組む中で、交流の楽しさを実感する。

（3）期日 平成14年6月29日（土）、30日（日）

（4）活動の内容とねらい

活動1 神泉文化の紹介

ねらい：地域の文化を留学生に紹介し、体験させることを通して自分達の理解度を確認すると同時に、自分達の故郷を誇れる気持ちを養う。

活動2 夕食作り

ねらい：食事班で決めたメニューを留学生と一緒に調理する。

活動3 外国の文化を留学生から学ぶ

ねらい：留学生に出身国のことを話をしてもらい、自分達との違いに気づきこれからの生活にどのように生かすことができるか考える。

（5）実行委員会作成のしおりより

総合的な学習の時間に各班で分かれて体験してきたこと、また各班の発表を聞いて、神泉について知らないことがたくさんあり、地域にはいろんな事を知っている人達がいることがわかりました。総合的な学習の時間を通し机の上で学習すると「そうなんだ・・・」と納得して終わるけど、実際に体験してみるとやり方など自分たちで調べたこととずいぶん違い、本当に何か一つ作るだけでも大変なんだということを実感することができました。そして、実際に体験したことで自分たちが教わってきたものは決して忘れないと思うし、今度は私たちが他の人に教えられたいと思います。それに地域の人から教わったので村の人と交流できました。地域の方は私達が教わったりすることをとっても喜んでくれました。これで神泉のことを色々教えることができたいと思います。いい国際交流学习にしたいです。

（6）事前体験学習

生徒から総合的な学習の時間で調べたり体験したいものを希望を取り、指導者を地域の

方をお願いした。指導者は一芸に優れた村の方が組織されており、それを利用させていただいた。もの作りを通して地域の方と交流でき、また、地域の方も中学生と交流できて大変好評であった。

⑥ 実際に調べたり体験したもの

- ① 蕎麦作り
- ② 豆腐・湯葉作り
- ③ 着物の着付け・折り紙
- ④ 草履・草鞋作り
- ⑤ 炭俵作り



歓迎会



① 蕎麦作り



② 豆腐・湯葉作り



③ 着物の着付け・折り紙



④ 草履・草鞋作り



⑤ 炭俵作り

(7) 国際理解交流学习を通して学んだこと（生徒の感想文より）

「みて、みんなが私達を見ているよ。」「みんなは私達が何処からきたか知っている。なんて恥ずかしい。」 郡市学校総体で私達はお互いに良くこう言ったものだ。なぜ神泉だということを恥ずかしく感じたのか。「神泉ってどこ」たぶんあなたはこう聞くだろう。私はそれを聞いた時に不愉快になる。でも今は全然気にしない。私は人々が神泉について何と言おうと理解している。なぜ私が今、自分の故郷について誇りを持っているか教えます。私達の学校では総合的な学習の時間で故郷について学んでいます。

総合的な学習の時間で国際理解を学習することになった。そして1人の先生はこう言った。「まず始めにあなたたちは自分達の地域について勉強するべきだよ。」私は最初どうしてなのか理解できなかった。なぜ私は国際理解のために自分の地域について学ばなければならないのかと。でも、そのまま授業は始まってしまった。私は神泉について何を知っているのか考えてみた。まず、山に囲まれていて、水がおいしくて、有名な豆腐と味噌の会社は、水のために神泉にやってきた。人々はお互いをよく知っていて、会うたびに「こんにちは、元気」などと挨拶をする。しかし、人口は千人ちょっとで、買い物をするにも他の町にいかなくてはならない。私はそれぐらいしか知らなかった。

総合的な学習の時間で私達は興味深い伝統的な文化についてインターネットや資料を使い、蕎麦や手工芸について情報を集めた。そして、そのことについて教えてくれる人を村からさがした。指導者はとてもやさしく教えてくれた。わたしは蕎麦作りをしようと思った。しかし、それは見た目よりむずかしく正確な成分だけでなくその日の湿度なども関係した。村の指導者はそれをすべて知っていて、長年の勘で、手で触るだけで粉のかたさや、ゆで時間もわかっていた。

6月に早稲田大学の留学生が村に来て国際交流学习を行った。私達はそこで自分達の調べたものや体験したものについて語ったり、実際にやって見せた。留学生はとても興味深そうに見て実際に体験したりした。

私達は文化的な活動をやってみせることで、自分の村に誇りを持てた感じがした。それ以来私は自分の村に興味を持ち続けている。しかし国際化とは何だろうか。他国の文化や歴史について学ぶことだろうか。たしかにそれも一部だろう。私は国際化とは、ただ、単に情報を受け取るだけでなく、受け取った分以上に何かを返していくことだと思う。私達は自分の故郷に誇りを持つべきだ。そうすれば自信を持って他国の人達に教えることができるだろう。



バンガローでの学習



インドネシアの楽器で演奏

2 オーストラリア海外研修（2 学年）

村の主催事業であるが、毎年2年生全員が参加をしており、学校でも大変意義のあるものと捉え事前学習、事後学習にも力を注いでいる。この体験は修学旅行に必ず生かされたいと考える。以下村の実施要綱を挙げる

1) 実施要綱

(1) 趣旨

21世紀を担う若い人材の育成は地域活性化の基本であり、このため豊かな感受性と自由な発想を持つ少年・少女を対象として、体験を主体とした海外研修を実施し、果敢な行動力と国際的な視野を広め、未来を担う自覚を促すことにより「村作り」を担う人材の育成を図る。

(2) 主催 神泉村

(3) 対象 神泉村に在住する神泉中学2年生在学の健康な者。

(4) 参加者の決定

中学2年生在学の者で、本人の希望により、村長が決定する。

(6) 費用負担

参加者は、直接研修に係る経費のうち一部について負担する。

(5) その他

参加者は事前研修会への参加と研修報告を提出すること。

2) 研修内容

期 日 平成14年8月2日（金）から8月8日（木） 6泊7日

研修場所 オーストラリア ブリスベン及びシドニー

日程

日次	月日(曜)	地 名	現地時間	交通機関	予 定	食事
1	8/2 (金)	神 泉 村 成田空港 成田発	13:30 19:30 21:40	村バス JL761 便	村バスにて成田空港へ 成田空港第2ターミナル クイーンズランド州ブリスベンへ	夕:機内
2	8/3 (土)	ブリスベン着	07:20 午 後	専用バス	ブリスベン市内観光 (ローンパインコアラ保護区、マウントクー ンガなど) ホストファミリーと対面後、各家庭へ	朝:機内 昼:○ 夕:家庭
3	8/4 (日)	ブリスベン	終 日		ホストファミリーとの 交流	朝、昼、 夕:家庭
4	8/5 (月)	ブリスベン	09:00 15:00		現地学校訪問 ホストファミリーと帰宅	朝、昼、 夕:家庭

5	8 / 6 (火)	ブリスベン ブリスベン発 シドニー着	朝 08:00 15:30 17:10 18:40	専用バス 専用バス QF545 便 専用バス	おストファミリーとお別れし学校に集合 自然体験学習 空港へ シドニーへ 着後ホテルへ	朝: 家庭 昼: ○ 夜: ○
6	8 / 7 (水)	シドニー	終 日	専用バス	シドニー市内見学 (オペラハウス、ハーバード・ブライジ、 ロックス、シドニー水族館等)	朝: ○ 昼: ○ 夜: ○
7	8 / 8 (木)	朝 シドニー発 成田着 成田空港 神泉村	09:35 18:10 19:00 23:00	専用バス 村バス	空港へ 空路、帰国の途へ 着後、神泉村へ 解散式	朝: ○ 昼: 機 内 夜: 機 内



ブリスベン マウントクーサの丘



ブリスベン 現地の学校で一緒に授業



ブリスベン ホームステイの家族とお別れ



シドニー オペラハウス前

3) 海外研修の感想

8月2日から8月8日までの1週間私たち神泉中2年生は、海外研修としてオーストラリアへ行きました。オーストラリアでの体験は、とても多くの発見を私にくれました。それは大きく分けて2つあります。

1つは、日本との文化の違いや、日本と同じ、又は似ているところという発見です。例えば5日に行ったオーストラリアの学校では、お弁当は、外で食べていたり、ティーの時間があったりと、学校だけでも多くの発見がありました。

そして2つ目は、彼らには日本人にはあまり見られない、素晴らしい気持ちがあるということです。正直いって、不安がまったくなく訳でなく、どちらかというと期待より不安の方が大きかったんです。しかし、ホストファミリーは、そんな私たちの気持ちを察してか「Hy nice to meet you」と、優しくそして明るく話しかけてくれました。なので、「あっ、私たちのことを、本当に歓迎してくれているんだ。」と思い不安も半減したような気がしました。また、私たちがうっかりホストファミリーの前で、日本語を話してしまったとき「Please speak no japanese」と言ってくれました。その時私は「ちょっと位いいじゃん」と思いました。しかし、今思うとホストファミリーの為でもあるかもしれないけれど、それは私たちの為でもありました。なぜかという、せつかく仲良くしたいと思ってくれているんだし、勿論私たちも仲良くしたいと思っているのに、2人だけの秘密みたいにされたら相手も嫌な思いがするというのを気付かせてくれたり、「ダメなものはダメ」と、しっかり言わなければという事を教えてくれました。ある先生は「日本人には、はっきり言わないといけない事が、はっきり言えない人が多いから外国人に遅れをとるんだ。」と言っています。私は改めてそう感じました。もし、ホストファミリーが注意してくれなかったら、私は人の気持ちも考えずに、日本語で話しつづけていたと思います。海外研修とは、外国で生活することによって英語力を付けること、そして国際交流とは、外国人と触れ合う事で英語力を付けることだと思っていましたが、たしかにそれも大事だけれども、外国人と触れ合うことで自分の内面が変わる事を発見しました。オーストラリアに行っていた1週間は、とても楽しくて、とても早く過ぎた1週間でした。しかし、一生忘れられない1週間になりました。

大人になって、自分で働くようになったら、また、オーストラリアに行きたいです。

最後になりますが、私たちの海外研修を最高なものにするために頑張ってくれた皆さん、本当にありがとうございました。



ブリスベン ランチは外で一緒に

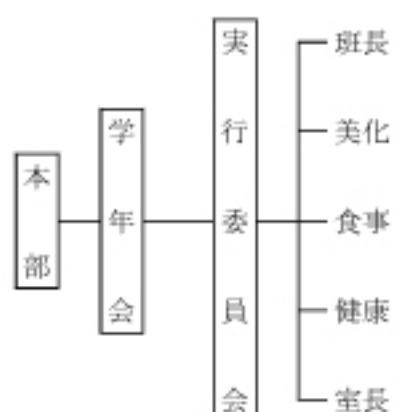


ブリスベン 折り鶴を教えています

IV. 修学旅行の取り組み

(1) 事前準備

①組織作り



②事前活動日程

月	日	曜	活 動 内 容
4	1 1	木	修学旅行クラスミーティング「自分を語ろう」について①イントロダクション、自分を語ろうの目的について、資料の読み合わせ
	1 7	水	事前学習（京都、奈良の地理的な位置、京都の風景＝ビデオ学習）
	1 9	金	修学旅行クラスミーティング「自分を語ろう」について②自分を語る内容の検討（いつ頃のどんな話を語ろうかを考える）
	2 6	金	事前学習（奈良の風景＝ビデオ学習）
5	1	水	日程説明、事前学習（社会科の教科書等から京都、奈良に関連のある出来事、建物等を抜き出し、班別に発表）
	1 0	金	実行委員会からの連絡、（スローガン、旅館の班、夕食、きまりなど）電車の座席決定（高崎線）
	1 5	水	京都見学場所の事前調査学習
	1 7	金	奈良見学場所の事前調査学習
	2 4	金	京都班別タクシー見学コースの決定（班ごとに話し合い）

	24	金	奈良班別見学コースの決定（班ごとに話し合い）
	30	木	修学旅行クラスミーティング「自分を語ろう」について③発表用の原稿作成、提出。新幹線の座席決定（東海道線）
	31	金	しおりの読み合わせ
6	2	日	修学旅行
	3	月	↓
	4	火	↓
	5	水	振り替え休日
	6	木	事後指導（感想文作成）
	6	木	事後指導（班別行動報告会資料作成）
	12	水	事後指導（班別行動報告会）

③事前活動の内容

◎実行委員会の活動

本校は小規模校で3年生は14人しかいない。その中で、実行委員会には6人（男女各3人ずつ）が立候補してその仕事にあたった。その内容は、修学旅行全体の日程の立案や実際の運営、しおり作りであった。また、生活のきまり等の検討も行い、次のようなことを提案した。

ア 修学旅行の目的

- ・京都・奈良の歴史的文化遺産に触れ、見聞を広め豊かな心を育てる。
- ・集団生活を通して、自主的かつ自律的態度を培う。
- ・友達同士の友情を深めるとともに、生徒と先生の信頼関係を高める。

イ 服装について

旅館外は制服（学校で決められたもの）。

男子…学生服・ズボン、ワイシャツ、靴下（白）、ベルト（黒）

女子…制服・スカート、ブラウス、ベスト、靴下（白）

*靴は白地の運動靴

*旅館内の服装として、学校で着用している体育着ジャージ上下、半袖体育着、ハーフパンツ、Tシャツも可

ウ 持ち物について

☆個人で用意するもの

- ・サブバック
- ・洗面用具、風呂用具（シャンプーなど）
- ・着替え（下着、靴下、ワイシャツ、ブラウス等2、3日分）
- ・エチケット袋、ビニール袋、ハンカチ、ちり紙
- ・雨具（折りたたみ）
- ・体育着（寝るときはパジャマも可）
- ・副食物（1000円以内） ガム、缶ジュースは禁止
- ・薬品
- ・保険証の写し（しおりに張り付ける）
- ・しおり、筆記用具、ガイドブック
- ・お小遣い（見学科、交通費を含む）

☆個人で用意してもよいもの（自分で責任を持って管理する）

- ・カメラ ・時計 ・電卓 ・テレホンカード

☆班で用意してよいもの

- ・ドライヤー ・トランプなどのカードゲーム
- ・電池を使わないゲーム類

☆持ってきてはいけないもの

- ・雑誌類（マンガ） ・ウォークマン ・ラジオ
- ・電池を使ったゲーム（ゲームボーイなど） ・個人用の携帯電話

エ 注意事項

□車内での過ごし方

- ・先生や添乗員の指示に従って行動する。
- ・車内を歩き回らない。
- ・車内の美化を徹底する。
- ・持ち物を忘れない。

□旅館での過ごし方

- ・係の人の指示をよく聞いて、失礼のないようにする。
- ・非常口の確認を全員がしっかりする。
- ・室長からの連絡や指示を静かに確実に聞く。
- ・消灯時間（この時間以降は、部屋から絶対に出ないという時間）を守り、睡眠はしっかりとる。
- ・室内の美化を徹底する。
- ・館内、室内の破損に注意する。
- ・入浴でふざけたりしない。タオル等の忘れ物をしない。
- ・忘れ物をしない。

□タクシー見学について

- ・京都・奈良見学地には国宝・重要文化財といった歴史的文化遺産が数多くあります。その遺産に対してイタズラをしたり、勝手にさわったり、足を踏み入れたりしないように見学場所の注意事項をよく守り、他の見学者に迷惑をかけることな

くマナーある行動をとしましょう。

- ・写真撮影禁止の場所も多いのでよく確認しましょう。
- ・タクシーの中では、飲食は慎みましょう。
- ・自分勝手な行動はしないで、協力しましょう。
- ・運転手さんの指示をよく聞きましょう。

□その他

- ・暴飲暴食をしない。
- ・けがをしたり体調を崩したら、先生と班員に必ず報告する。

◎ 係りの仕事

□班長

- ・人員点呼、班長会議での連絡事項の伝達

□室長

- ・人員点呼、部屋の点検
- ・部屋の管理（カギ、テレビ、電灯、貴重品）

□美化係

- ・車内、部屋の美化
- ・浴場の点検（片づけ、整理、確認）

□食事

- ・健康観察（朝、夜）→担任に連絡
- ・食事場所の美化点検

◎ 修学旅行の原案の決定

修学旅行の日程と大まかな予定については、すでに前年度に決定されているので、その枠の中で生徒が選択できることを極力、生徒に考えさせ計画させた。第1日目は当初、奈良まで行って見学して、京都の旅館に全員で帰るという予定だったものを、班ごとに行ってみたいところを計画させ、利用交通機関や時刻表を自分たちの手で調べ、時間を計算し、自分たちの力で予定した時刻に旅館に着くように変更した。第2日目は、タクシー見学になっていたのを、テーマを決めさせ、それにあったコースを考えさせた。第3日目は午前中しか見学等に使える時間がなかったので、大仙院で座禅を組んだ後、いくつかある体験学習のコースから興味のあるものを4コース生徒に選ばせ、4グループに分かれ時間を決めて各自で京都駅に集合するという方法をとらせた。

（2）修学旅行の実際

①第1日目

学校集合→本庄駅→東京駅→京都駅→近鉄奈良駅→**班別行動**→旅館（京都市内）

実行委員会による出発式を行い、本庄駅に向かう。本庄駅で規則を破ってお菓子を食った生徒を発見。規則を破った罰として、全員が上野駅まで行く間のお菓子を食べてもい

い時間をなしとした。初めにこのような処置をしたせいか、その後、規則を破る者は出なかった。東京駅から約3時間、トランプをしたり友達や教師と話をしたりして同じ車両に乗り合わせた他校に迷惑もかけず、京都駅に着いた。京都駅から約30分、近鉄奈良駅に着いてからはそれぞれの班で計画を立てたコースを回り、自分たちの力で旅館にたどり着くという行動をとった。4班でそれぞれ法隆寺コース、薬師寺周辺コース、奈良公園周辺コースに分かれたが、事前学習でコースを選んだときに東大寺だけはどの班も是非行きたいということで、まず、東大寺に行き大仏とご対面してからそれぞれで計画したコースに分かれることになっていた。したがって、奈良公園周辺コースを選んだ2班は比較的のんびりしていたが、法隆寺コース、薬師寺周辺コースは駅を出るとすぐにタクシーを使い、急いで東大寺に向かった。また、東大寺から駅に戻るときもタクシーを利用し、それぞれの決めた時刻の電車に乗って目的地に向かっていった。それぞれの班には、いざというときのために携帯電話を持たせ、定期的に連絡をとった。また、教師はチェックポイントで待機するというのではなく、それぞれの班の後ろから絶対に口出しはしないで生徒に任せるという約束で、つかず離れず見守っていった。必要に応じ、



姿をくましました現れるという方法をとった。京都行きの電車では、校長が生徒より1本早く出発し、1本遅れて最後の教師が追いかけていくという方法をとった。しかし、生徒は慣れないせいか、目的地までの切符を買うところでもたつき、危うく予定の電車に乗り遅れるところだった。そのせいで、一人の生徒がはぐれ、京都に着く途中まで生徒同士で探しあっていたということがあった。また、地下鉄への乗換駅でまごつき、乗り越してしまった。その時には、生徒たちが校長に追いつき、校長は竹田駅で乗り換えなくてはいけないことがわかっていながら、教師は口を出さないという方針を守って生徒とともに乗り越した。そして途中で、間違いに気づき戻ってきた。そんなわけで、最後に出発した教師が1番早く旅館に着いた。

夜は、学校では見ることのできない生徒の顔を見ることができる絶好のチャンスなので、それぞれの部屋を回り、コミュニケーションづくりに励んだ。また、担任は男子と一緒に入浴した。

◎奈良市内班別学習コース

- A班（法隆寺コース） 東大寺～J R奈良駅～法隆寺駅～法隆寺～法隆寺駅～J R奈良駅～近鉄奈良駅～竹田駅～四條烏丸駅～宿
- B班（西の京コース） 東大寺～近鉄奈良駅～大和西大寺駅～薬師寺～唐招提寺～尼ヶ辻駅～大和西大寺駅～竹田駅～四條烏丸駅～宿
- C班（奈良公園コース） 興福寺～東大寺～春日大社～近鉄奈良駅～竹田駅～四條烏丸駅～宿
- D班（奈良公園コース） 興福寺～東大寺～奈良国立博物館～近鉄奈良駅～竹田駅～四條

②第2日目

旅館→班別にタクシーで見学→旅館→クラスミーティング「自分を語ろう」

午前8時30分から午後5時まで班別にタクシーで見学に行った。それぞれの班でテーマを決め、テーマに沿った計画を作ったの見学である。

タクシーに乗り、それぞれの班が計画に沿って出発していった。運転手さんはベテランの個人タクシーの運転手さんで、安心して任せることができた。見学場所では事前に調べていったことをもとに見学したが、運転手さんも見学場所にいっしょに行き、大変わかりやすく説明してくれたそうだ。生徒にはそれが良かったらしい。連絡は、



運転手さんの携帯電話を使って、決まった時間に連絡を生徒から入れさせた。また、必要に応じ、こちらから連絡を入れ、現在地や体の具合の悪い生徒がいないかどうかを班長を通して確認していた。運転手さんがついてるので、チェックポイントは特に作らなかったが、計画書を見て先回りして見つからないように様子を見たりしていた。どの班も何事もなく、計画よりも早いペースで旅館に帰ってきた。

夜は4月当初から計画していたクラスミーティングを行った。生徒たちは幼稚園時代からを含めると、11年間同じクラスでずっと生活してきた。しかし、お互いの表面は知っていても、その人の裏側にあることや考えていることなどをよく知らない。お互いが理解し合って生活できれば、相手に対して思いやりの心でさらに接することができるのではないかと思います。このクラスミーティングを行うことにした。はじめるに当たって、担任がこのクラスミーティングの趣旨を話し、担任から『自分を語る』ということでも話し始めた。車座に座り、右回りに話し出した。担任の次に話をした生徒は3月に転任してしまった元担任についての思いを涙ながらに語った。みんな泣きながら聞いていた。そして次、そして次という具合にそれぞれ自分を知ってもらうために、今までみんなに話したことのなかったことを話し始めた。終わったときには、お互いの心の距離が何歩か近づいた気がしていた。そして、みんなすっきりした気分ですべての部屋に戻っていった。



◎京都市内班別学習コース

- A班 宿～東本願寺～二条城～映画村～仁和寺～昼食～竜安寺～金閣寺～八坂神社～
円山公園～清水寺～宿
- B班 宿～三十三間堂～清水寺～銀閣寺～金閣寺～昼食～天竜寺～広隆寺～二条城～
運転手さんのお勧めの場所～宿
- C班 宿～仁和寺～妙心寺～金閣寺～源光庵～北野天満宮～昼食～曼殊院～銀閣寺～
養源院～清水寺～宿
- D班 宿～二条城～仁和寺～金閣寺～曼殊院～昼食～銀閣寺～八坂神社～清水寺～
三十三間堂～本能寺～宿

③第3日目

旅館→大徳寺大仙院（座禅）→**班ごとに体験学習**→各班ごとに京都駅集合→東京駅
→本庄駅→学校

旅館を出発して、大仙院へ行き座禅を組んだ。玄関から小さな部屋へ通された生徒たちは初め、何が始まるのだろうかとはしゃいでいたが、住職の尾関宗國氏が入ってくると、



その迫力に圧倒され水を打ったように静まりかえった。それから30分くらいだろうか、心静かに座禅を組んだ。ふだん、おとなしくすることの苦手な生徒たちは、黙って目を瞑り、背筋を伸ばして微動だにしていけないと懸命に座り続けた。そして、自分から進んで住職に背中をたいていただき、気持ちよかったと後で言っていた。

非日常的なこのできごとが大変印象的だったと多くの生徒が感想文に書いている。また、座禅の後に聴いた住職の活気あふれる、積極思考に基づく法話は生徒たちに元気を与えてくれた。

大仙院を後にして、それぞれが希望した体験学習の場へと4班に分かれて向かった。それぞれの体験学習とは、友禅染（しょうざん）、念珠作り（今井半念珠店）、象嵌作り（中嶋象嵌）、京扇子作り（京扇堂）である。お店の人の説明をいっぴくなく真剣に聞き、今までほとんど縁のなかったものを夢中に作り上げていく。1時間半があっという間に終わった。体験学習が終わると、それぞれの班が自分たちの力で京都駅の指定された場所に集合することになっていた。どの班も予定の時刻より早く集まることができ、自らの手で作った作品を満足そうに見せ合っていた。



帰りの新幹線の中では、疲れたのか、安心したのかほとんどの生徒が休んでいた。本庄駅から学校に向かうバスの中で解散式を行い、学校に着いてすぐに解散した。

（３）事後指導

①しおりの整理と反省

修学旅行中は１日の反省（時間を守れたか、一般の人に迷惑をかけなかったか、時間通りに行動できたか、部屋が整理されているか、あいさつがきちんとできたか等である）と日記を書かせ、チェックして返した。また、その日行って来たところを思い出させながら、俳句もしくは短歌を１日１句創らせた。

学校に戻ってきてからは、しおりを完成させて提出させ、チェックして返した。また、感想文を全員に書いてもらった。

②班ごとの報告会

班ごとに行って見たことや体験したことを１枚の紙にまとめて壁新聞とし、それをもとにして報告会を行った。それぞれの班がどんな体験をしたのかを他の班の人たちは興味深く聴いていた。なお、壁新聞は階段の踊り場のところに掲示して下級生にも見られるようにし、自分たちの修学旅行に関心を持たせるようにした。



③修学旅行の感想文から

（女子生徒）

—中略—

臨時列車に乗り、山手線に乗り換えてから新幹線、近鉄と改めて考えてみると、奈良に行くのにこんなに乗るなんてやっぱり遠いなあ～と思うのですが、奈良に少し近づくたびに私の胸は躍っていました。新幹線に乗るのは初めてでした。だから、初めて私たちが乗るひかり号を見たときはびっくりしました。こうして奈良に着き班行動です。すごく暑いし、疲れたけど写真もたくさん撮ったし楽しかったです。

旅館に帰る途中、切符を間違えて買ってしまい、電車で迷ったことも印象的です。みんなが乗っている車両と私の乗り込んだ車両が離れていたのも間違えて乗ったのかと思い、不安になりました。班の人を探しにいろいろな車両を見てまわったのですが、みんないませんでした。とりあえず、竹田駅に着けば誰かに会えるだろうと思い、探すのをやめました。そしたら、少したったとき友達２人が探しに来てくれました。本当に会えて良かったです。そして、ホッとしたのか、私は駅を間違えて乗り過ごしました。そのとき竹田駅と気付いた人も何人かいたみたいでしたが、私が違うと思いこんで降りなかったことが原因だったかなと思います。私はふだん電車に乗ってどこかに行くこともあるので、慣れているから大丈夫だろうと思い、油断していました。私は、緊張感を持って行動しないとだめなんだなと思いました。それで、やっと烏丸御池に着いたのですが、今度は旅館がわからなくてたいへんでした。旅館に着いたときには、到着予定時刻を大幅に越えてしまってい

ました。でも、このことは、いい勉強になったと思います。

—後略—

(女子生徒)

—中略—

2日目のタクシー見学では、運転手さんといっしょに4人で世界遺産のお寺をまわりました。様々な日本の歴史を身近に感じることができ、説明上手の運転手さんには本当に感謝しています。お昼にはそばを食べました。清水寺では他の班と合流し、Mちゃんと願い事をお願いしてきました。

旅館で焼きそばを食べてから、『自分を語ろう』の時間になりました。あの雰囲気とみんなの表情は、今まで見たことのないものでした。私は一生忘れないと思います。その後、みんなを見る目が変わりました。本当に貴重な体験でした。

—後略—

(男子生徒)

—中略—

修学旅行で一番印象に残ったものといえば、大徳寺大仙院で座禅をしたことでした。僕は京都へは何度か行ったことはあったのですが、座禅を組んだのは初めてでした。ものすごく大変で、すぐに足がしびれてきてしまいました。そのままの姿勢を保つのもつらくて、終わってから立ち上がる時に少し左足の感覚がなかったです。そのあと聞いた尾関宗園さんの話はとてもおもしろく、考え方を考えるいい機会になったと思います。

V まとめ（成果と課題）

今回の修学旅行は「自ら学び、自ら考える」態度を育成することが主なねらいであった。本校は、全校生徒40人の小規模校である。3年生は1クラス14人で、幼稚園児代からずっと同じクラスで生活してきた生徒が多い。当然、お互いのことをよく知っていて支え合う学年集団になっているものと思いがちであるが、残念ながら友人のことを表面的にしか理解してなくて、いろいろな問題もあった。そこで、修学旅行ではその人の裏側にあることまでも含めて、自分で話せる範囲でよいから自分のことをみんなに理解してもらおうと『自分を語ろう』というクラスミーティングを行ってみた。その結果、自分と同じ年の、そしてもっとも身近にいた友人の知らなかった面やその裏側にあったことを知って、その人から「学んだり」、その人について「考えたり」する事ができ、お互いの理解も深まり、友人との心の距離が縮まったようだ。これは、宿泊を伴う旅行的行事だからできたのであり、とても有意義であった。

次に、本校では初めて奈良での見学を班ごとに計画させ、公共交通機関を使って自分たちで見学して、さらにまだ行ったことのない京都の旅館まで行かせるということを試みた。本村では、公共交通機関といえば村営バスしかなく鉄道は通っていない。電車の時刻表などとは縁のない生徒たちである。その生徒たちが、準備の段階からインターネットを使って路線や時刻表を調べ、自らの手で見学を計画して実践できたことは意義深い。実際場面では、路線図の見方がよくわからず乗り遅れそうになったり、その際すこし焦ってみんなで班員を一人残して電車に乗ったために心配したり（結果的には、一番後ろの車両に遅れた生徒が乗っていて後で探していた班員と会うことができた）、乗換駅で降りないで乗

り越してしまったり、地下鉄駅から地上に出て方角が分からなくなり、旅館に予定時刻に到着できなかったり、いろいろなハプニングがあったが、失敗からたくさんことを学び、たくさんことを考えさせられたことと思う。

また、修学旅行は非日常的な体験である。京都や奈良では私たちが生活している地元では味わえないことがたくさんある。その中の一つとして今回は、京都・大仙院で座禅を組んだ。たった30分であったが、生徒たちは今まで味わったことのない静寂と瞑想にふけるという経験をしたようだ。ここでは日頃落ち着いて物事を深く考えないように見えるにぎやかな生徒たちが、静かに座禅を組み何を学び、何を考えたのであろうか？それから、京都の伝統文化も興味深い。あまり、時間がとれなかったが体験学習にもチャレンジした。京友禅や念珠づくりや象嵌づくり、そして京扇子などである。短い時間であったが、時間を忘れて一生懸命に取り組むことができた。

課題は、下調べの段階で調べ方が甘かったことである。例えば、奈良の班別行動では電車を取り間違えて時間をロスしたある班が唐招提寺に行ったときには、もう拝観時間が終わってしまっていて中に入るができなかった。また、時間通りに旅館に着くことができなかったことももう少し余裕を持って計画を立てるべきだったろう。また、各見学場所についての勉強ももう少ししておくべきであった。そのためには、1・2年生の段階から修学旅行に関係のある事柄が出てきた場合には意識的に知らせていったりして、興味関心を高めておくことと、修学旅行の計画を大まかでよいから見通しを持って立てておくべきであったと思う。